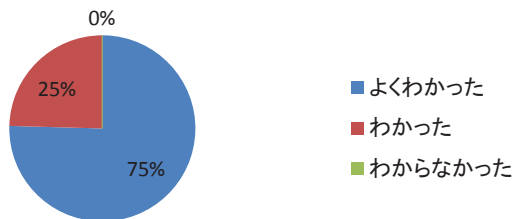


地元小学校の児童が、天王橋架け替え工事の現場を見学しました！



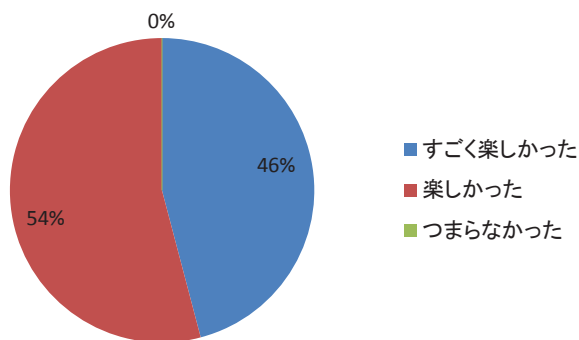
橋のお話はよくわかりましたか？



橋のお話はよくわかりましたか？

よくわかった	46
わかった	15
わからなかった	0
集計	61

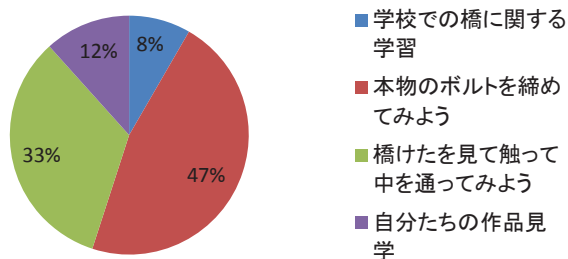
クイズは楽しかったですか？



クイズは楽しかったですか？

すごく楽しかった	28
楽しかった	33
つまらなかった	0
集計	61

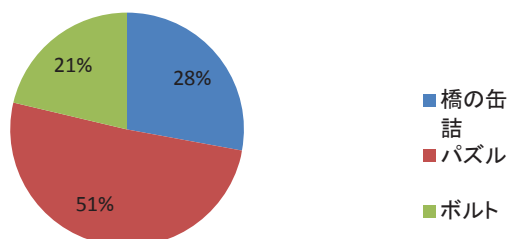
体験学習で何が印象に残りましたか？



体験学習で何が印象に残りましたか？

学校での橋に関する学習	5
本物のボルトを締めよう	28
橋けたを見て触って中を通ってみよう	20
自分たちの作品見学	7
集計	60

どのお土産が一番うれしかったですか？



どのお土産が一番うれしかったですか？

橋の缶詰	17
パズル	31
ボルト	13
集計	61

天王橋工事現場

石巻・大谷地小と鹿又小6年生 「復興の懸け橋に」 願い込めて横断幕

「未来」「笑顔」市民にアピール

石巻市の大谷地小6年生29人と鹿又小6年生36人が、旧北上川に架かる天王橋(国道45号)の架け替え工事現場に掲げる横断幕を作った。河北、河南両地区をつなぐ新しい橋が地域発展の懸け橋にもなるようお願いを込め「未来」「笑顔」などの言葉を使って制作。幕は早速、現場に掲げられ、橋を通行する車両にアピールしている。



子どもたちの横断幕が掲げられた架け替え工事現場

制作は、現在の工事を担う瀧上工業仙台営業所が、天王橋でつながる2地区の両校に依頼し実現。大谷地小は「未来へのかけ橋」「笑顔の花を咲かせよう」、鹿又小は「ほくらを結ぶ天王橋」と描いた。出来上がった幕は2枚つながり(縦1枚、横16枚)にし、現在の天王橋から見える工事用のブリッジに取り付けた。

両校のうち、大谷地小は児童がそれぞれデザインや言葉を考え、菊地風花さん(12)と金沢くるみさん(12)の案に絞り制作。花や星、虹などが描かれた明るい作品に仕上がった。

「笑顔のー」を発案した横断幕は4月中旬ごろまで掲示される予定。菊地さんは「東日本大震災から約5年がたつけれど、まだ仮設住宅に住んでいる人がいる。その人たちにも笑顔になってほしいと思う」と語り、「未来へのー」の金沢さんは「よい街にして、未来につながるという思いを込めた。縁取りなどが大変だった」と話した。

4、5の両日は両校の6年生を対象にそれぞれ現場見学会が開かれ、児童たちは横断幕が掲げられた様子を確かめるなどした。ボルトの締め付け体験や、橋桁の内部の見学もあった。

4月中旬ごろまで掲示



ボルト締め
体験



箱桁見学



大谷地小学校

作成した横断幕
を見学



送り出し設備
を見学



アンケート用紙に記載されたコメント等
石巻市立大谷地小学校

[illegible]

石巻日日新聞社
〒986-0874

石巻市双葉町8番17号
電話 0225-95-5231
ファックス 0225-94-4720
郵便振替口座 02240-3-4424

©石巻日日新聞社 2016

Hibi-net
http://www.hibishinbun.com
info@hibishinbun.com

2016年(平成28年)2月6日 土曜日

天王橋に思い込めた横断幕

大谷地、鹿又小6年生が制作

架け替え工事が進む国道45号天王橋Ⅱ石巻市Ⅱに今月から、橋の両岸に近い大谷地小学校と鹿又小学校の6年生がそれぞれに制作した横断幕が掲げられている。4、5日には両校の6年生を招いた工事現場見学会もあり、子どもたちが普段は見ることのできない架橋作業に触れるなど、馴染みある地域の橋への愛着を一層深めた。

現場見学で深める愛着

横断幕設置は、工事を担う瀧上工業の社会貢献事業の一環として

大谷地小6年生はカラフルなデザインで制作(上) 鹿又小6年生が製作した横断幕(下)

実施し、国交省東北地方整備局石巻国道維持出張所が共催した。両校では縦1・2メートル、幅8メートルの横断幕を制作。大谷地小は「笑顔の花を咲かせよう」と「未来へのかけ橋」、鹿又小は「ほくらを結ぶ天王橋」

「天王橋」のメッセージを手延べ機に設置され、寄せた。作品は現場の現在の天王橋から見る



両校の児童を招いた見学会で身近な橋への理解を深めた(4日、大谷地小)

ことができる。

大谷地小児童対象の現場見学会は4日に実施した。学校で橋の製造工程や新旧の天王橋について学んだ後、現地でボルト締め体験のほか、橋げた内部に入るなど貴重な機会を満喫。また現橋からは掲げられた横断幕も確認した。

同校では6年生全員が昨年12月から約1カ月かけて横断幕を制作した。花柄のデザインを考えた菊地風花さん(12)は「地域の皆さんを笑顔にできるような、明るくかわいい絵にした。よく通る橋なのでいい思い出。新しい橋が完成するのが楽しみです」と話し、虹と星が描かれた横断幕を考えた金澤くるみさん(同)も「未来につながる良いまちになってほしい」という気持ちで作った」と思いを語った。

た。

天王橋は架橋から56年が経過し、老朽化と震災による部分損傷に伴い、平成26年10月から架け替え工事に着手。石巻国道維持出張所によると、現在の工事進捗は35%で、供用開始時期は未定という。なお、横断幕は手延べ機の作業が終わる5月ごろまで設置され、その後、学校に返却される。

寒さ乗り切るエクササイズ

9日うめばたけ

第64回コミュニティカフェ・うめばたけの「寒さを吹き飛ばすエクササイズ」が9日午前10時から、石巻市田道町の市民協・いしのまきハウスで開かれる。参加費1000円。

NPO法人まちの寄り合い所・うめばたけ



学習会



箱桁見学



鹿又小学校



上部工見学



ボルト締め
体験

アンケート用紙に記載されたコメント等
石巻市立鹿又小学校

・ 橋けたに入ってみて、さわったりしたらすごく固いことが分かりました。質問して、重さなどもよく分かりました。貴重な体験ありがとうございました。
・ 橋けたの中に入って色々なことをしました。橋けたの中は何回もとそうをしているそうです。橋をつくるのにもらったボルトもらってとてもうれしかったです。貴重な体験ありがとうございました。
・ 天王橋でボルトは何個使っているのかなど その他たくさん分かりました。本当にありがとうございました。
・ 橋げたを見たり触ったりできたし、いろいろなことが分かった。それと初代の橋が出来た年数が分かったのが一番うれしかった。
・ 橋について知らなかったことも分かりました。ボルトを締めるとき、うまくいって良かったなと思いました。橋けたを通ったときは、まるで本当の部屋のような感じがすごいなと思いました。とても貴重な体験をすることが出来ました。
橋けたの中に入って、リブやフランジ、ウエブの3つをはかったり、問題を出されたりしたときが一番楽しかったです。ボルト締めを初めて体験したことも良い思い出になりました。今日は、本当にありがとうございました。 サバ缶、美味しくいただきました。ボルトもかざっています。
・ 橋の見学会、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。この経験を生かしいろんなことにつなげて行きたいと思います。
・ 人の苦労と、費用がたくさんかかっている、そして工事の人の思いが感じられました。
・ 橋ができるまでの行程が、見れて良かったです。大人になった後に橋に関係していたらためになると思います。ありがとうございました。
・ ぼくは初めて天王橋の体験をしてさらにドリルのしめつけがなお楽しかったです。この体験を忘れないようにしたいです。
・ 自分の知らなかったことを、細かく教えていただいたのでよく分かりました。質問をすると優しく教えていただいたことが一番うれしかったです。ボルトしめでは、このようなことをして橋ができていくのだなとおどろきました。
・ 自分達がふだん通る天王橋について、今までよりたくさん知れました。とくに、新天王橋についてたくさん知ったので、家の人に新天王橋のことを自まんしたいです。今日はありがとうございました。
・ 自分たちも、通る天王橋がどのように作られているかや、どのような橋なのかなどが、とても分かりやすく、体験などもとても楽しかったです。ありがとうございました。
・ 橋がどうつくられるかなどをくわしく知れて良かったです。自分達が日頃から使っている橋の感しょく、温度などたくさんを知れてうれしかったです。ありがとうございました。
・ ボルトを締める機械が、思ったよりも、重かった。橋がどのように作られているかが分かった。
・ ボルトを取る時のガチンという大きな音にびっくりしたけど、パズルなどのおみやげもらえてうれしかったです。
・ 現場見学会に参加して、こんなに大きなものを造れるのはすごいと思いました。橋はとても大切なものです。しっかりといねいに作業をしているんだということが分かりました。これからがんばってください。
・ ボルト締め、橋けた、クイズが楽しかった（うれしかった・）です。・・・7
・ 橋について学べて良かった（勉強になった）。・・・・・・・・・・・・10
・ 貴重な体験が出来ました。ありがとうございます。・・・・・・・・・5
・ おみやげ（缶詰・ボルト・パズル）を頂いてうれしかった・・・・・・・6

者自ら無資格運転をしてい
る現場が確認されたため、
無資格運転は厳しく排除す
ることなどを徹底するよ
う、発注機関と関係団体に
強く要請した。

また、岩手労働局は5日、
久古谷敏行局長が岩手県建
設業協会（木下紘会長）に、
安全意識の高揚などを盛り
込んだ防止対策徹底を働き
掛けた。福島労働局でも、
県内発注者や関係団体に今
回の結果を踏まえた安全パ
トロール実施や、会員企業
への呼び掛けを求めた。さ
らに市町村まで要請を浸透

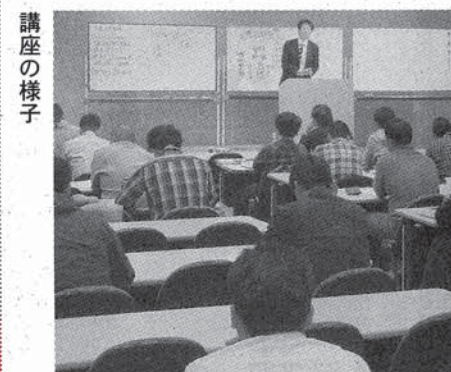
させるため、県内の建災防
支部や団体支部に要請内容
を周知した。

前回の受付終了後も数多く
の受講要望が寄せられたた
め、追加開催を決めた。50人
の定員に達し次第、受け付け
を締め切るため、早めの申し
込みを呼び掛けている。

震災復興や政府が進める国
土強靱化計画、さらには東京
五輪開催を控え、建設需要が
全国的に急増する中、団塊世
代の技術者がリタイアを迎
え、現場での技術者不足は建

合格対策講座を3月 建設管理センター！

開催講座は「土木」「建
築」「電気工事」「管工事」
「造園」の各施工管理技
士。受講料は1級16万2
000円（全9回・実地
含む）、2級12万960
0円（全8回・同）。ま
た、「建設機械施工技士」
の受講料は1級が全7回
で9万7200円、2級
が全5回で7万5600
円、「給水装置工事主任



講座の様子

地元小学生がボルト締めなど初体験

天王橋（宮城県石巻市）で現場見学会

瀧上工業

瀧上工業（愛知県半田市
瀧上品義社長）が上部工を
進める国道45号天王橋架け
替えの現場を4日、5日の
2日間、地元小学校の児童
が見学した。児童たちは普
段は入ることができない橋
桁内部を見て触ったり、本
物のボルトを締め付けた



ボルト締付の様子

と、初体験の現場を楽しん
だ。児童を代表してあいさ

つした千葉梨央さんは「こ
れから天王橋がどう造ら
れていくか楽しみにしてい
る。しっかりと見守ってい
きたい」と完成に思いをは
せた。



児童らが描いた横断幕

を合わせて書いた横断幕が
取り付けられており、その
様子を現橋の歩道から見学
した。

児童からは「橋の耐久性
や載せられる最大の重さは
どれぐらいか」「これまで
経験した中で最も長い橋の
工事は何か」といった質問
が活発に寄せられた。

5日にも石巻市立鹿又小
学校の児童が同様の内容で
現場を体験した。

新たな橋は橋長372
m、幅員11m（車道部
7・5m）の鋼5径間
連続非合成箱桁橋。架
設に当たっては、ク
レーンベント工法と手
延べ機送出し工法を採
用している。進捗率は
35％で、桁の送り出し
作業に取り組んでいる
状況だ。

石巻市立大谷地小学校の6
年生29人が見学会に参加。
学校で、部材を工場製作し
ている現場のDVDを見た
上で、天王橋の現況と新し
い天王橋の違いなどを学ん
だ。現場では、電動器具を
使って本物のボルトを締め
付けたほか、橋桁の内部に
入ることも体験。新たな橋
を送り出すための手延べ機
には、児童たちが事前に力

を込めた。

瀧上工業の栗原実工事本
部長は本紙の取材に対し、
「橋などのインフラは完成
してしまつと、誰がどのよ
うに造ったのかが分かりに
くい。橋がつながっていく
様子を実際に見てもらふこ
とで建設の仕事に興味を持
ち、将来の担い手が生まれ
ることに期待したい」と力

再建はまだまた
引き続き会を挙げ
ていく」と力を込
め、来賓の祝辞で
方整備局の西澤一
長が「先日、設計
の改訂が発表され
も発注者責務を果
う取り組んでいく
を述べた。

仙台市の小島備
局長は「市役所
えを検討しなけれ
ない時期に差し掛
る。実施する際
んの協力を得て市

地震・豪雨を想定し人命救助

山形市消防局

筋が見える大小のコンク
リートガラを2日前から訓
練用に整備していた。訓練
では、隊員がバネの下

シートイエス仙台支店

日本電設協東北
技術継承が
最重要課題
新年賀詞交換会

部（佐竹勤支部長）の新年
賀詞交換会が、仙台市のホ
テルメトロポリタン仙台で



1・2級施工管理技士合格対策

【開催講座】

土木施工管理技士
建築施工管理技士
電気工事施工管理技士

初回日程

仙台会場:3月14日(月)

フォレスト仙台

東北・北陸各県の日程・会場につい
ては、お問い合わせ下さい。

責任指導のため定員50人

感謝状

瀧上工業
株式会社
殿

貴社は天王橋復旧工事に伴う地域貢献として現場見学会の企画など教育環境の整備充実に貢献されました
よってその功績をたたえ深く感謝の意を表します

平成二十八年三月一日

石巻市立大谷地小学校

校長

齋藤

達彦





感謝状

瀧上工業株式会社 殿

貴社は本校の教育活動への
深いご理解を示されるとと
もに記念の校章をご寄贈さ
れました
よってそのご厚情に対し深
甚なる感謝の意を表します

平成二十八年三月一日

石巻市立鹿又小学校

校長 長沼 静子





感謝状
聖上工業株式会社 殿
貴社は本校の教育活動への
深いご理解を示され、こと
もに記念の校章を寄贈さ
れました。
よってそのご厚情にたいし、ま
甚なる感謝の意を表します。
平成26年11月1日
校長 長瀬 静子

